

伊達市版ネウボラ事業

妊娠期からの切れ目のない支援
そして親子が笑顔になる架け橋

福島県伊達市 こども部ネウボラ推進課 小室 恵美子

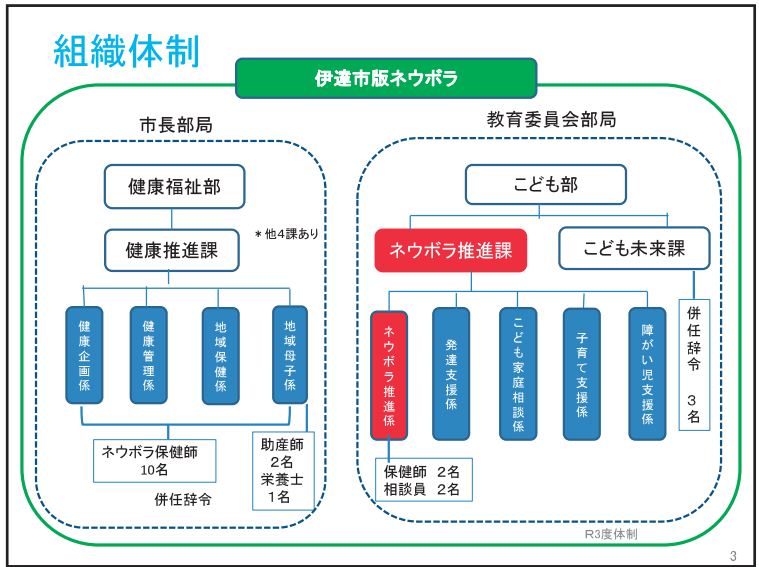
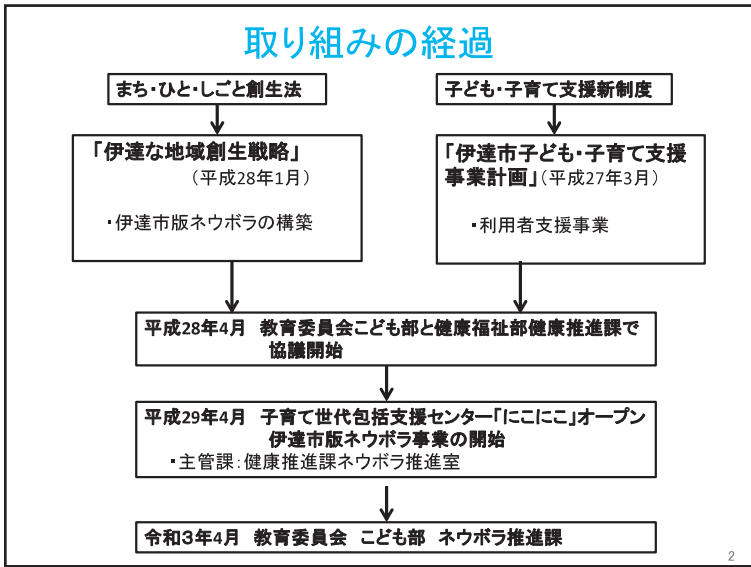
伊達市の概要

□面積 265.1km²
□地勢 県都福島市に隣接
森林、農地が65%
□人口 58,963人(R3年3月)

□出生数 R2年 280人 (届出数)
合計特殊出生率 1.31 (H28年)

人口の推移

出生数の推移



ネウボラ(neuvola)とは？

フィンランドの子育て家族支援の「制度」であり「地域拠点」そのものの名称でもある

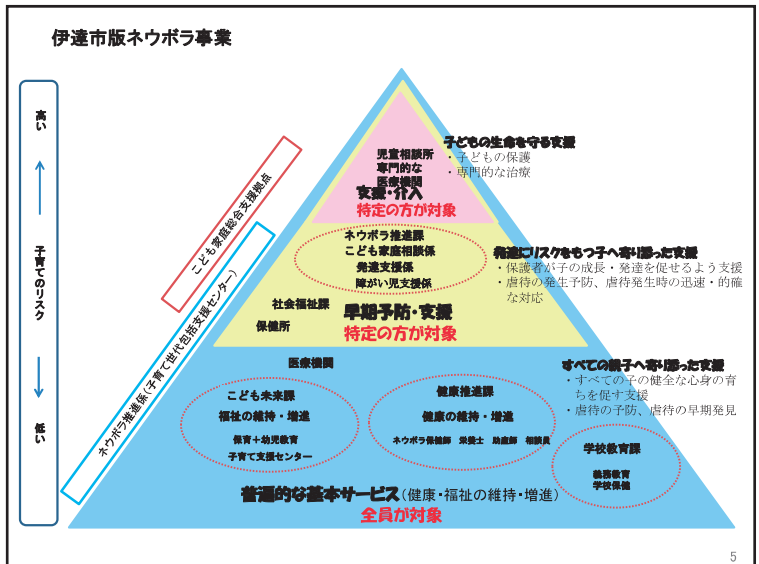
neuvo (アドバイス・助言)の la(場)

★考え方★
「地域の実家」

★特徴★

- 妊娠の届け出: 大切な最初の一步
- 全員対象: 困る前につながる
- 個別対応: 1人ひとりとの対話・面談
- かかりつけの担当者: 継続して信頼関係をきずく
- 専門職: サポートの質の保証

出典:ネウボラ フィンランドの産産・子育て支援 高橋睦子著



伊達市版ネウボラ事業の概要

全体コンセプト

妊娠期からの切れ目ない支援 そして親子が笑顔になる架け橋

こどもが健やかに成長し、安心して就学できるように結び付ける「架け橋」のような存在

基本的な考え(2本の柱)

(柱1) 寄り添う支援

就学までのすべての親子の心配なこと、困っていることの相談を受けます。切れ目なく支援することで「安心」を届けます。

(柱2) 保健と保育の一体化

保健師と保育士両輪によるアドバイスを行い、お子さんがよりよく成長していくように見守ります。

妊娠期	乳幼児期(0歳~就学前)
<ul style="list-style-type: none"> 1組の親子に担当のネウボラ保健師が継続して支援 担当のネウボラ保健師による母子健康手帳の交付と面談によるケアプランの作成 育児パッケージのプレゼントと訪問 	<ul style="list-style-type: none"> 助産師による産後ケア(訪問、ディ、宿泊) ネウボラ保健師による全乳児へ全戸訪問とケアプランの作成 携帯電話による電話相談 相談員による気軽に相談できる仕組み 各種相談会
<ul style="list-style-type: none"> 子育てアプリによる情報の発信 ママカフェ等による仲間づくり 	<ul style="list-style-type: none"> 子育てアプリによる情報の発信 親子関係を育み子どものよりよい発達を促す遊びの教室の開催 子育て支援センター

「基本的な考え」を進めるために必要なこと
子育てに関わる部署が一体となって進めていく体制(併任辞令の発令)
関係機関の連携

すべての妊産婦と就学前の乳幼児を対象とする

伊達市版ネウボラ事業の取り組み

- ①切れ目のない支援を行うための職員の配置
- ②子育てを社会で受け入れる取り組み
- ③産後の支援の強化
- ④きめ細やかな相談機会の充実
- ⑤こどもの発達を促す取り組み
- ⑥子育てを楽しむしくみの構築
- ⑦関係機関のネットワークの構築



子育て世代包括支援センター
ここにこ

①切れ目のない支援を行うための職員の配置

取り組みの特徴

- ネウボラ推進課を設置し、マネジメントを行う保健師・相談員(2名を)配置
- 保健部門にネウボラ保健師(10名)・助産師(2名)を配置 →併任辞令
- ネウボラ推進課以外の児童福祉部門へ併任辞令を発令

具体的な取り組み

- ネウボラ保健師を中心とした切れ目のない支援
妊娠届時に担当ネウボラ保健師が面接
原則、小学校入学まで同じ担当とする(あなたの担当保健師)
- 連絡を取りやすい体制をとる
ネウボラ保健師・助産師・相談員は携帯電話をもちアクセスしやすくする
ネウボラ名刺をお母さんに渡す
- ネウボラ保健師によるケアプランの作成
生活習慣病予防を視野に入れた取り組み



取り組みの効果

- 相談先が明確になり、相談しやすいとの声がある
- ネウボラ保健師が支援しやすくなった
- 様々な職種が重層的にかかわることで支援の幅が広がった

②子育てを社会で受け入れる取り組み

取り組みの特徴

- 育児パッケージを贈り、市が子育てを見守っていることを伝える

具体的な取り組み

- 全妊婦に妊娠32週以降訪問(保健師または相談員が実施)
- 育児パッケージ贈呈を行いながら、出産の準備等を妊婦等と一緒に考える
- パッケージの内容は市で重点的に取り組む「食べる」と「遊ぶ」ことに使うものとする

取り組みの効果

- 産後の支援にすぐつながる
- 妊婦が出産に向けてのイメージをつけられる



③産後の支援の強化

取り組みの特徴

産後の育児不安の強い時期に助産師等がきめ細やかに支援する

具体的な取り組み

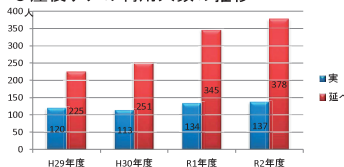
- 応援メッセージ 担当:ネウボラ保健師
- 産後ケア(訪問型、ディ型、宿泊型) 担当:助産師
- 乳児全戸訪問 担当:ネウボラ保健師
- 赤ちゃんサロン(産前・産後サポート事業) 担当:相談員
- ママカフェ(産前・産後サポート事業) 担当:相談員

取り組みの効果

- 産後ケアの早期利用につながっている
- すべての産婦に産後の育児不安が強い時期に支援が可能

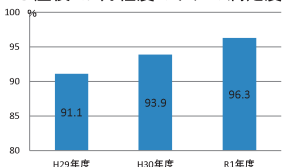
事業の評価

○産後ケアの利用人数の推移



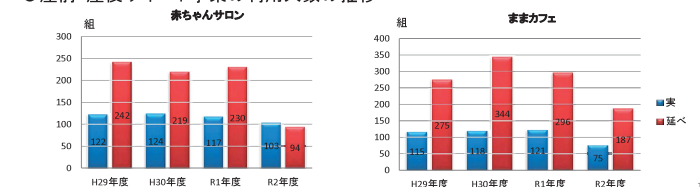
○令和2年度の状況
・利用率は45.1%。初産婦は62%が利用している
・2週間以内の利用は全体の41.9%

○産後1か月程度のケアの満足度



健やか親子21アンケート結果より
・「はい」と回答

○産前・産後サポート事業の利用人数の推移



④きめ細やかな相談機会の充実

取り組みの特徴

- ・気軽に相談できる体制の構築
- ・次の支援につながりやすい事業の構築
- ・育児に必要な情報(特に子育ての悩みで多い離乳食・幼児食や歯など)を得られる仕組みの構築
- ・支援が必要な親子が相談できる体制の構築

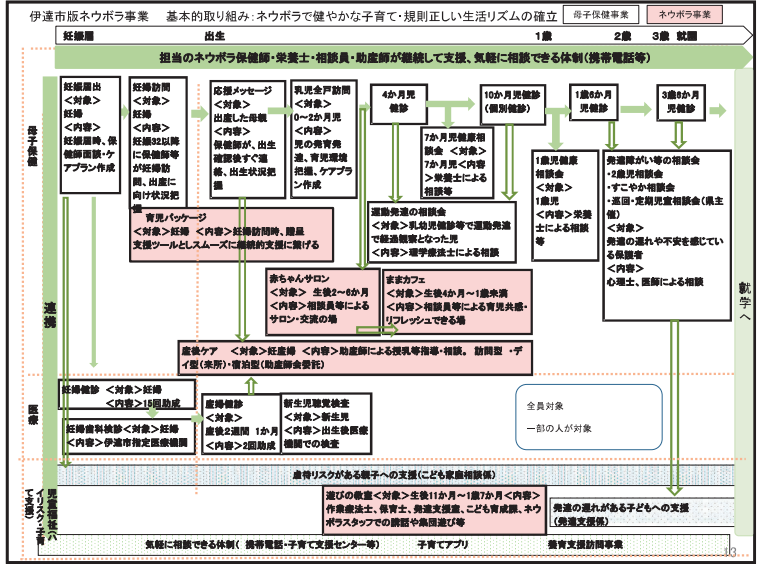
具体的な取り組み

- ・家庭訪問(妊娠期と乳児期の全戸訪問) ・携帯電話による相談
- ・相談員による声かけ(健診や相談会等)
- ・健康相談会(7か月児、1歳児)
- ・産前・産後サポート事業(赤ちゃんサロン、ママカフェ)
- ・支援が必要な親子への小集団支援(親子教室、親教室)

取り組みの効果

- ・わざわざ相談に行かなくても会話の中で解決することができる
- ・母親同士の交流や情報交換の場にもなる

12



13

⑤こどもの発達を促す取り組み

取り組みの特徴

親子が楽しみながらこどもの発達を伸ばせるしくみをつくる

具体的な取り組み

- ・相談会等で保育士からこどもの関わり方を指導
- ・遊びの教室の開催

⑥子育てを楽しむしくみの構築

取り組みの特徴

親子が気軽に子育てに関する情報を得たり、交流できる

具体的な取り組み

- ・子育てアプリ
- ・子育て支援センター(市内6カ所)
- ・室内あそび場(市内4カ所)



14

⑦関係機関のネットワークの構築

構築の経過

○平成29年度 主管課「健康福祉部 健康推進課 ネウボラ推進室」
 ・併任辞令の発令 → 児童福祉部門の一部にネウボラ併任辞令の発令
 ・ネウボラ定例会の開催
 庁内の児童福祉、保健部門で月1回伊達市の子育て支援の在り方を検討

○令和2年度

- ・庁内の組織改編の検討が始まる
- ・ネウボラ定例会に教育部門が参加

○令和3年度 主管課「教育委員会 子ども部 ネウボラ推進課」の設置

- ・併任辞令の発令 → 保健部門にネウボラ併任辞令の発令
- ・子ども家庭総合支援拠点の設置

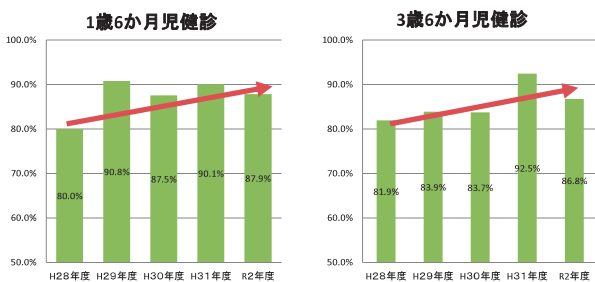
保健、医療、児童福祉、教育の連携の強化

15

事業の評価

子どもたちの生活リズムの変化

○7:00までに起床している子どもの推移

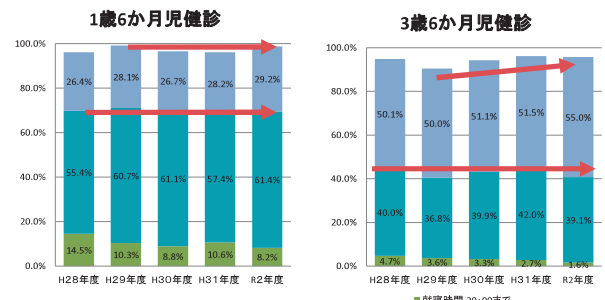


16

事業の効果

子どもたちの生活リズムの変化

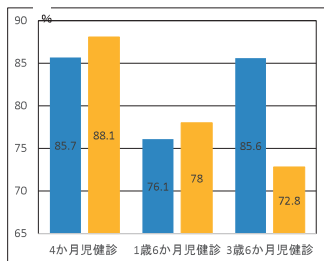
○22時までに就寝している子ども



17

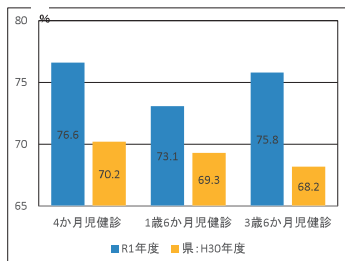
事業の評価

○ゆったりとした気分で子どもと過ごせる時間がある人



健やか親子21アンケート結果より
・「はい」と回答

○この地域で今後も子育てをしたい人



健やか親子21アンケート結果より
・「そう思う」と回答

18

課題と今後の取り組み

★課題★

- ①子育てを取り巻く多様な課題に対して、保健・医療・福祉・教育が連携を取りながら包括的な支援が必要な状況である。
- ②すべての子どもたちが健やかに成長するための対策が必要

★今後取り組みの中で検討していく必要があること★

- ①関係機関とのネットワークの構築
 教育部局の中で効果的な連携体制の検討
 地域の子育てに係る機関とのネットワークの構築
- ②子ども家庭総合支援拠点との連携
- ③親子を気にかける地域づくりの推進

おらほの子育て日本一



19